

当たり前の生活を支えたい

◆キーワード

- 1 BPSD の軽減
- 2 自己決定支援
- 3 信頼関係

大阪府・大阪市

ふりがな ぐるーぷほーむ おあしすきずり
種別・施設名 グループホームオアシスきずり

ふりがな かいごし やまもとかなこ
職種・発表者：介護士・山本佳奈子

やまもと ひろふみ
共同研究者：山本 洋史

運営主体：社会福祉法人 大和福寿会
施設名称：グループホームオアシスきずり
提供サービス：認知症対応型共同生活介護

所在地：大阪府東大阪市衣摺 2 丁目 9-13
開設：平成 21 年 9 月 7 日
定員：18 名 (9 名×2 ユニット)

(取り組んだ課題・はじめに)

ご入居当初は帰宅願望や物とられ妄想の訴えが激しくコミュニケーションをとることさえ難しかった A 様が趣味や行事、イベントを一緒に行う中で楽しみや生きがいを感じていただき、ホームに居ても穏やかに落ち着いた生活ができるように支援する

(倫理的配慮)

ご家族とご本人に説明してご理解をいただいた上で、同意書に記名・押印をいただいた。

(具体的な取り組み)

・対象者

氏名：A 様 (84 歳・女性・要介護 3)
入居期間：半年(当時)
障がい高齢者の日常生活自立度：A1
認知症高齢者の日常生活自立度：Ⅲa
既往歴：肺梗塞・認知症・両変形性膝関節症
現病：アルツハイマー型認知症
入居時の状態：帰宅願望・物とられ妄想
歩行器使用・生活面においては自立されているところが多い

・サ高住の施設対応や職員に不信感があり不満を感じられたご家族の希望で入居となる。入居当初は「勝手に連れてこられた、早く家に帰して」「携帯も財布もない、泥棒がおる、警察を呼んで」と毎日繰り返し仰られ激しい興奮と帰宅願望、物とられ妄想が毎日続いた。傾聴しようとしても「近寄らんといて」と受け入れてもらえず職員もどう対応すればいいか悩み GH 会議で話し合った。会議で話し合ったこと

- 1) 不安や想いに寄り添うこと、話を否定しない
- 2) 居心地の良い環境作りと楽しみのある生活支援
- 3) 物とられ妄想がある時は安心できる言葉がけをしながら一緒に探す

この取り組みをする中でノートやペンが鞆から出てくる。ノートに不安なことや心配事があれば書いてくださるよう促す。会話をしながら趣味や嗜好がわかってきた。取り組んだ内容

何かあればノートに記入していただく。帰りたいと訴える時間帯に趣味だった手芸ができる時間を設ける。ホーム内で喫茶店を開催。行事やイベントの参加。ミャンマーからの技能実習生に対し漢字の先生をしていただく。

(活動の成果と評価)

取り組みを始めて 5 カ月後には興奮が収まらないほどの激しい帰宅願望は 3 分の 1 まで減少、不安や心配からくる帰宅願望も「家にある足踏みミシンが使いたい」と帰りたい内容も変わってきた。

BPSD が落ち着いてくると周りの方との関係も良好になり笑顔で会話をする姿をよく見られるようになった。

(考察)

居場所が変わったことをきっかけにその不安からくる帰宅願望の症状が強く現れたと推測できる。安心できる家に帰りたい、家を忘れたくない、ご本人の安心を支えるためにおこる症状と受け止め気持ちを無視しなかったケアが BPSD の軽減に繋がったと感じる。生活歴の把握、ご本人の思いに寄り添う時間が多く持つこと、自己決定支援ができるのも GH ならではの環境だからこそできる。

(まとめ)

今まで自宅でしていた趣味や楽しみを GH に入居したからと言ってあきらめるのではなく、今までしていた生活にどう近づけるのか、集団生活をする中で考えていかなければならない。また職員も環境の一部であり常にかかわる職員が変われば新しいことを覚えることが難しい入居者の方にとって信頼関係を築くことに時間がかかる。なじみの職員が関わることで入居者の方やご家族も安心して頂ける。入居者の数だけケアや対応方法も違う。良いケアを続け安心できる環境を提供できれば入居者の方の不安や心配も減り、穏やかに落ち着いた生活ができる。関わる職員でケアを統一しチームで生活を支え、当たり前の生活を応援していきたい。

(参考・文献など) なし

『どんぐりの玄関飾り』

◆キーワード

- 1 認知症ケア
- 2 地域に開かれたホームを目指して
- 3 社会との繋がりを感
じることができる安心

利用者様の楽しみから役割に繋がるケア

(福岡県・古賀市)

施設名 社会福祉法人豊資会

ぐるーぷほーむどんぐり
グループホームどんぐり

職種・発表者：管理者・貞木 良太

共同研究者：溝上 紀子

(今回の発表の施設またはサービスの概況記入欄)
グループホームどんぐり

(事業所に関する情報記入欄) 2ユニット 18名の事業
所、設立は2006年

(取り組んだ課題・はじめに)

グループホームどんぐりは、緑に囲まれた公園の中
にあり、その環境の中で四季折々の景色や空気を感じ
ることができます。コロナ禍で地域資源を活用するこ
とが難しい中、利用者様と地域をつなげる方法として
ホームの玄関入口の空間を飾りつけ、それを地域の
方々に見ていただくという取り組みをしました。

(倫理的配慮)

発表にあたり利用者様及び地域の方々の個人が特定
できるような映像や情報は伏せております。

(具体的な取り組み)

はじめ、ホームの玄関入口を飾るようになった理由に、
ホームが取り組んでいる「五感を刺激して楽しみを見
つける」ケアがありました。そこで四季を表現し、それ
を楽しみに繋げるための飾りつけがはじまりました。
テーマ『春』：まず、春といえば何を連想しますか？ど
んなイメージでいきますか？と利用者様と一緒にどん
な飾りにするか考えます。「お雛様！」「入学式？」「や
っぱり桜」「桜きれいよね」「お花見行きたいね」とお話
ししながら「桜を作ろう！」ということになりました。
作るなら本格的に、その花の下でお花見ができるよう
な桜を制作しました。制作に当たっては利用者様が取
り組めることを難しすぎず、飽きずにできるように心
掛けました。作りながら自然と桜や春についての思い
出話しが出て、回想法につながります。例年なら雛飾り
だけだった玄関飾りが今年は満開の桜や『さげもん』も
加わり華やかになりました。

テーマ『初夏』：5月は鯉のぼりを中心に藤の花を飾り
ました。毎年見学させてもらっていた近所のお庭の藤
棚をイメージしました。

テーマ『秋』：秋は「紅葉」「落ち葉」と案が出た中で、
ある利用者様が「わたし、佐賀県に友達がいる秋は気球
が沢山上がってきれいなものよ、一回見に来て行って
もらったことがある」と言われたことで気球を上げる
ことにしました。気球は大小さまざま色とりどり「The
どんぐりバルーンフェスタ」が開催されました。

テーマ『年末年始』：例年ならお正月飾りをするとこ
ろ、今年はコロナ禍で「初詣に行けないね」ということ
で「どんぐり神社」を制作。ついでに三社参りができる
ように各ユニットに鳥居を設置し無事？！に初詣をする
ことができました。

(活動の成果と評価)

この取り組みを継続していく中では地域の方や家族
の協力を得ることもできました。自宅で飾ることがな
くなった雛飾りを寄付してくれた地域の方は華やかに
飾られたお雛様を見て喜んでいただきました。また鯉
のぼりを寄付してくれた家族様からは「母が孫のため
に送った鯉のぼりがまたこうして母のいるホームで飾
られて、母は覚えてないかもしれないけどうれし
いです」と見学に来るたびに飾りつけを楽しみにしてく
れるようになりました。他のご家族様も「次はどんな飾り
にするつもりですか？」と期待してくれるようになり
ました。利用者様の楽しみにつながるケアを目的には
じまった取り組みでしたが、他者も喜んでくれること
になり、それが利用者様に伝わると次第にやりがいに
繋がっていきました。そしてさらに地域の方に見学し
てもらおうと公園内に看板を出してPRし足を運んでも
らうことで、開かれたホームへの取り組みにも繋がっ
ています。

(今後の課題・考察・まとめ)

『どんぐりの玄関飾り』、少しずつ知名度が上がって
は来ていますが地域へのPRは始まったばかりです。今
後継続していく中で、より気軽に立ち寄れる場所を目
指して、コロナ禍にあっても利用者様が地域社会と繋
がり、役割を持っていると感じられるような取り組み
にしていきたい。正直、毎回飾りつけのアイデアを絞り
出すことに苦労していますが、利用者様やご家族様、地
域の方々がこの飾りつけを見て元気づけられたらと思
っています。

(参考・文献など)

なし

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告

		<p>めんべいは皆さまに愛され今年で20周年を迎えました</p> <p>辛子めんたい風味</p> <p>めんべい</p>	<p>株式会社 山口油屋福太郎</p> <p>〒815-8550 福岡市南区五十川1-1-1</p> <p>TEL 0120-71-4444</p> <p>https://www.fukutaro.co.jp/</p>	
---	---	---	---	---

薬ではなく代替ケアで

～自然排便を目指して～

◆キーワード

- 1 下剤
- 2 自然排便
- 3 食べる甘酒

広島県・福山市

かぶしきがいしゃ きゅーおーえる
株式会社 QOL サービス ありがとうグループホーム

ふりがな かぎた ともみ
職種・発表者：介護職 鍵田 朋美

共同研究者：

(グループホーム：2ユニット定員18名 平均介護度4.3(介護度Ⅰ0名、Ⅱ1名、Ⅲ3名、Ⅳ4名、Ⅴ10名) 職員数：18.6名(常勤17名非常勤2名) 介護福祉士12名 ヘルパー4名。[共用デイ(定員6名)職員、ショート(定員1名)対応含む])

平成16年開設 木造2階建て1階部分
GH建物面積461㎡ 各種加算ほぼ全て算定
入居待ち数 常時 65-100名。

(取り組んだ課題・はじめに)

当グループホーム(以下GH)入居者中5名が毎日便通誘導剤を服用しており、個人の排便状態にあわせて-〇日目で座薬または浣腸をすることとなっているが、座薬後は自然排便後と比べてぐったりしていることが多い。そこで非薬物ケアで自然排便を促す工夫をしたのでその取り組みと結果を報告する。

(倫理的配慮)

本人・家族・施設管理者に発表内容を説明し、承諾を得た。

(具体的な取り組み)

アセスメント(評価、情報収集、分析、ニーズ把握)

	服薬排便	自然排便
表情	しんどそう	普段と変わらず
便後状態	ぐったりしている	スッキリした様子
便	軟らかい又は泥状に近い便	普通便

具体的な取り組み

① 水分摂取

現状の状態では1日の水分摂取量をチェックし、少ない人には負担にならない量を追加する。

② 食物繊維摂取

座薬でも便が出にくい人には、サツマイモと米麹で作り冷凍している「食べる甘酒」を毎日25g食べてもらう。

③ 腹部温熱療法+マッサージ

坐薬予定日の朝食後に腹部をホットパックで温め、トイレに座った時に腹部のあたりをゆっくりマッサージする。

(活動の成果と評価)

入居者それぞれの好みにあわせて飲み物を提供することで、水分摂取量が取り組み前より増え(平均100～150cc増加)、食べる甘酒を毎日15時に食べてもらった

ところ5名のなかで特に以下3名の入居者に効果が出た。

A氏 女性 91歳 要介護5 自立度Ⅳ

朝食前・昼食前に便通誘導剤を服用、4日目で座薬をしていたが、甘酒を食べ始めるとトイレでの自然排便が増えて座薬の回数が以前の半分ほどに減る。

B氏 女性 99歳 要介護5 自立度Ⅳ

朝食前に便通誘導剤を服用、4日目で座薬。便失禁発生もあったが、朝食前の薬も調節するとトイレでの自然排便が増えて、便失禁はなくなり、座薬もほとんど入れなくなった。

C氏 女性 81歳 要介護4 自立度Ⅲb

朝食後・夕食後に便通誘導剤を服用、5日目、6日目に座薬・7日目に直腸診後に浣腸をしていたが、5日の座薬で便が出るようになった。調子が良いときは座薬無しの自然排便のときもあった。

あとの2人(D氏女性96歳、E氏女性87歳)は上記のような効果は見られなかった。

(今後の課題・考察・まとめ)

(1) 水分摂取、食物繊維摂取、腹部ケアの基本対応で半数以上の方が改善した。

(2) 効果が出ない2名の共通事項には、1日の水分量が他の人より飲んでいる日飲めていない日の量に差があった。

今回の取り組みで、基本対応のみでも効果があることから、下剤ゼロに向けて基本対応をする重要性が再認された。

また、基本対応で効果が出ない者の共通事項には身体を動かす機会が少ないことから、散歩やストレッチ等の対応に効果があるかもしれない。

(参考・文献など)

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告



株式会社 臨床宮崎

〒880-0911

TEL:(0985)52-6688

宮崎市田吉6269番地2

FAX:(0985)52-8093

『血液・感染症・遺伝子・病理検査等』を通じて地域社会・地域医療に貢献します

快適な排泄ケアの提供を

◆キーワード

- 1 おむつ交換
- 2 高機能パッド
- 3 排泄ケアへの意識

～高機能パッド導入による、排泄ケアの見直し～

大分県・竹田市

しゃかいいりょうほうじんしゃだんおおくぼびょういん

社会医療法人社団大久保病院 グループホームくたみのもり

ふりがな くどう みわ
職種・発表者：介護福祉士・工藤 美和

共同研究者：くたみのもり排泄担当、ユニ・チャーム株式会社

大分県：社会医療法人社団大久保病院
グループホームくたみのもり

平成12年5月に開設し、現在2ユニットの入居サービスを提供している。運営母体である、社会医療法人社団大久保病院は、医療・介護が連携した9事業所を展開している

(取り組んだ課題・はじめに)

当事業所は2ユニット18名の方が入居している。入居者全体の8割の方が排泄に介助を要し、トイレ又は、ベッド上での交換を行っている。交換回数は、“おむつは細目に変える事が清潔で快適”“長時間交換しないと皮膚トラブルの原因になる”との考えから、日中4回・夜間4回の計8回交換していた。今回、快適性を損なわずに、交換回数を減らすことを目的とした高機能パッド導入の検討を行った。結果、排泄に対しての職員の意識や手技の見直し、向上へと繋げる機会となった取り組みと今後の課題について報告する。

(倫理的配慮)

発表にあたり、取り組み内容において入居者が特定できないよう十分配慮し、協力メーカーに対しては趣旨を説明し、同意を得た。

(具体的な取り組み)

1. 排泄ケアアドバイザーを招き研修会を開催。
2. パッドを選定するためのアセスメントを実施。
おむつ交換回数変更後、尿モレの調査を実施。
おむつ交換回数変更後の皮膚トラブルの有無を確認。
3. 排泄ケアアドバイザーによる個別指導

(活動の成果と評価)

1. 交換回数を減らすことによるメリットと、減らすことで快適性を失う事にならない根拠を、施設内勉強会で学ぶことが出来た。全職員が参加した事により、職員が納得した上で取り組むことができた。
2. 8回/日おむつ交換を行っていた対象者4名(男1/女3)のおむつ交換を、高機能パッドを使用し、皮膚への発赤やただれ、夜間の睡眠状態について1週間の調査を行った。

(ア) 女性3名は、パッドの吸収量は十分であるにも関わらず、尿モレが多かった。原因は尿量ではなく、おむつの当て方にあり職員の手技である

と問題提起ができた。正しい当て方を排泄ケアアドバイザーに指導してもらい解決する事ができた。

- (イ) 男性1名は、尿量は問題ないものの、本人が陰部を触る事による尿汚染が多くあった。その為、尿汚染が不安のあまりおむつ交換をしている現状もあり、正確な状況が把握できなかった。
- (ウ) 調査期間中、皮膚の発赤やただれといった皮膚トラブルはなかった。

睡眠状態については、夜間21:00から6:00までの交換を2回へ変更したが、睡眠の質の変化は継続して調査が必要。

3. 排泄ケアアドバイザーが直接一人一人の職員の手技を確認・指導してもらった事により、手技の見直し・技能の向上へと繋げることができた。

(今後の課題・考察・まとめ)

今回、高機能パッドを導入し、夜間のおむつ交換回数を減らす事で、入居者の良眠の確保と、職員の負担軽減に繋がったと考えられる。さらに、当て方が悪く、パッドの吸収量を最大限活用できず尿モレを起こしていた調査結果から、改めて職員自ら手技を見直すことが出来た。そして、排泄ケアアドバイザーによる個別指導は、職員の技能を高めると同時に自信へと繋がった。

今回の取り組みにより、科学的根拠に基づいたケアを実践していく為には、常に新しい情報を掴むためにアンテナを伸ばし、修得していくことが大切である事を学んだ。入居者の生活の質を向上していくためのひとつの取り組みが今回の「排泄」であった。今後も専門家のアドバイスを活かしつつ、入居者への快適な生活の提供に取り組んでいきたい。

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告

第22回日本認知症グループホーム全国大会 福岡大会
ご開催おめでとうございます。

日本認知症グループホーム協会 熊本県支部

笑顔のもとは、地域&人にあり！

◆キーワード

- 1 ひととなりを尊重した暮らしを継続する
- 2 魅力たくさんの地元から元気をGET！
- 3 人との交流からも元気をGET！

(副題) 住み慣れた宇佐市の自然・人に触れていきいきと暮らす

(大分県・宇佐市)

種別・施設名 うすいかい ぐるーぷほーむ めるへん
社会福祉法人 宇水会・グループホームメルヘン

職種・発表者：管理者・いまど まきこ 今戸真希子

共同研究者：ケアマネジャー・ありせみえこ 有瀬美恵子

(今回の発表の施設またはサービスの概況記入欄)
認知症対応型共同生活介護事業所

(事業所に関する情報記入欄) 2ユニット定員 18名の事業所、設立は2001年5月1日。

(取り組んだ課題・はじめに)

コロナ禍でも、その人らしく。言葉に出すことは簡単です。でも、施設のなかで過ごす利用者にとっては、「コロナ予防で外には出られません」「お客様を招き入れることはできません」という言葉は、想像以上に息苦しさをもたらしているのでは……？ とくに、皆から「先生」と親しみを込めて呼ばれているSさん(88歳・要介護度3)は、これまでに行われていた認知症カフェ・日本舞踊の訪問行事・地域の子供たちの訪問行事等々といったイベントがやむなく中止となって、意気消沈。学校で教鞭を取っていた方で、人のお世話や子供たちと接することが大好き。法人内には、Sさんのかつての教え子だった職員もいるのです。そんなSさんをはじめとするご利用者の皆さんには、これまでどおり笑顔を輝かせてほしい……。この課題の解決を願う職員たちが、ご利用者が笑顔・元気になる取り組みを実践しました。

(倫理的配慮)

ご利用者のお名前はイニシャルとさせていただきますが、表情をお伝えしたいため、ご家族の了解のもと、お顔は映しています。

(具体的な取り組み)

「すぐ近くのひまわり畑を見に行こう！」職員からの自然な発案でした。紫陽花もまだまだきれいな所がありますよ、と他の職員から提案も。近くに美しい花や風景があるなら、気軽にふらっと、見に行くことが自然じゃないか……。当初は、深く考えずに実践していましたが、出かけたご利用者のはじけるような笑顔を見る度に、その効果に職員が気づきました。遠くに行けなくなったことが、施設の近くにも魅力的なものがあったことを見出すきっかけになりました。地域の美しいものや、人とできるだけ多く接していくことに取り組みま

した。具体的には、地域に気軽に出かける行事の実践や、向かいの認知症対応型デイサービスセンター職員との交流です。Sさんは、向かいのデイをご利用になっていたため、デイの職員とも顔なじみなのです。また、若者や家族に人気のアノお店で、ドライブスルーに挑戦してみたり……!?

(活動の成果と評価)

第1の成果は、ご利用者にのびのびと自然のなかで過ごす時間を持ってもらえたことです。壁に仕切られた施設の外には、地域の美しい風景が広がっていることを短時間でも実感してもらえたら、閉塞感は薄まるのではないかと思います。第2の成果は、職員の意識が変わったことです。思いつきでもいい。アイデアを皆で共有することで、ちょっとした行事を安心安全に行う事ができ、それがご利用者の元気を引き出す。そういった「ともに過ごす、いわば家族としての発想」とも言える感覚が身につけてきたことで、ケアの質も高まったのではないかと、思います。また、地域のなかで過ごすことで、地域の皆さんとの交流もこれからもっともっと深めていけたら、と考えます。

(今後の課題・考察・まとめ)

燈台下暗しという言葉があります。コロナ禍だからこそ、すぐ近くに笑顔の源があったことに気づけたのかもしれない。だからといって、地域に頼りっきりになるのではなく、ご利用者も職員も地域の一員として、地域を輝かせることが自分たちにより影響となって返ってきます。今後、積極的な地域活性化に向けた貢献活動のありかたの模索に繋げていくことが先の課題として視野に入っています。

(参考・文献など)

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告

“介護施設様向け給食”は「株式会社ほっとキッチン」におまかせ!!



info@hotkitchen.co.jp

☎0120-478-036

https://www.hotkitchen.co.jp/



長崎県・佐賀県
福岡県・熊本県
鹿児島県 全5県

本人らしさを生かした生活を

◆キーワード

- 1 暮らしの活性化
- 2 筋肉量低下の抑制
- 3 体重増加抑制

活気ある生活を目指して

(岐阜県・各務原市)

ふりがな ぐるーぷほーむ じょいふる かがみはら
種別・施設名 グループホーム ジョイフル各務原

ふりがな いわた たくや
職種・発表者：介護職 岩田 拓也

共同研究者：グループホーム 職員一同

(今回の発表の施設またはサービスの概況記入欄)
自然と町の調和がとれた地域の中で安心とくつろぎを提供。

(事業所に関する情報記入欄) 1ユニット9名の事業所、
設立は平成15年。

(取り組んだ課題・はじめに)

利用者様の中に入所当初に比べて、ポーっと外を眺めているのみの時間や、テレビをただ見ているだけの時間が増えている方が見える。若い頃は厨房で調理の仕事をしていた方で、料理が得意であったり、体を動かしたりすることが好きな方であったが、認知症状の進行もあってか、活動量の低下が見られる。そのため以前の生活を取り戻せるような働きかけをしたいと思った。また、ご家族も本人様の動きの緩慢さや体重増加をかなり気にしておられ、R1.10月カンファレンス時に活動量の増加と体重減少に向けての取り組みを行いたいとの申し出があった。主治医にも相談を行い、栄養状態も良好であるため、体重減少に向けて食事量半分でも問題ないと助言を頂ける。

【現状把握として】

- ・MMSEの得点が減少している。(H30.2月22点 R1.6月23点 R1.10月21点 R2.3月19点)
- ・体重が増加している。(H30.2月54.8kg H30.10月60.9kg H31.4月62.7kg R1.8月65kg R1.10月65.2kg)
- ・BMIが増加している。(H30.2月21.6。 H30.10月23.8。 H31.4月24.4。 R1.8月25.4。 R1.10月25.4。)
- ・筋肉量が低下している。(H30.2月25.3% H30.6月23.4% H31.2月21.4% R1.6月20.8% R1.10月19.6%)

(倫理的配慮)

該当利用者様、ご家族には同意を得た上で取り組みを行っている。

(具体的な取り組み)

- ・日中の活動量増加を目的とし、居室内の清掃(モップがけ)を行う
- ・グループホーム内で提供しているアクティビティの種類を増やし、楽しみながら活動量を増加できるようにする。

にする。

- ・食事の提供を、主食・副食共に半分量で提供する。
⇒ご家族からの提案。
 - ・週に1回(土曜日)に体重を測定する。
(活動の成果と評価)
 - ・体重増加が抑制され、63.0kg~64.5kgの間を推移するようになった。
 - ・筋肉量の低下が抑制された。(R2.2月20.6% R2.3月20.4%)
 - ・職員が提供するレクリエーションの種類が増え、アクティビティの幅が広がった。

(今後の課題・考察・まとめ)

【歯止めとして】

- ・週に1回(土曜日)の体重測定の継続
 - ・月に1回、筋肉量測定の継続
 - ・多様なアクティビティの提供
 - ・定期的なMMSE検査の実施
- 【波及効果として】
- ・表情がよくなった。
 - ・職員が様々なレクリエーションやアクティビティを考えて提供する機会が増えた為、他の利用者様から楽しみが増えたと声があった。
 - ・活動への意欲が高まった。

【まとめ】

・コロナウイルスの影響や熱中症対策の為、施設外での活動がしにくい状態にあるが、今後もレクリエーションやアクティビティに工夫をしながら、どの利用者様に対しても活動量の低下や筋力低下がなく過ごしていただけるよう、支援を行っていきたい。

(参考・文献など)

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告

介護福祉/医療業務ソフトウェア開発・販売	TEL 0985-29-5376
 アクティブ情報システム株式会社	〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島2丁目207-1
	http://www.active-info.co.jp/

食事介助のポイントと工夫

◆キーワード

- 1 食事時の姿勢
- 2 食事介助の工夫
- 3 食事環境の改善

～安全かつ楽しく食事をする為に～

(福岡県・久留米市)

ぐるーぷほーむ さくらえん
種別・施設名 グループホームさくら苑

みやはら はるか
職種・発表者：宮原 春香

つかもとたけし かわぐちともみ
共同研究者：塚本建志・川口智美

当法人は、2003年12月事業を開始。2ユニット・18名の認知症対応型共同生活介護事業所。また同法人は2016年11月1日式番館を設立。

当該事業所は、福岡県久留米市の南側に位置し住宅街の中にあります。

(取り組んだ課題・はじめに)

食事とは、生存するために必要なたんぱく質と活動する為のエネルギーを生産に渡って行う事であり、食事をとらないと、低栄養状態に陥りやすい。一般的に食事時間が30分以上かかると、集中力や咀嚼力が低下することで疲れてしまい、ムセや誤嚥、消化不良や食欲不振を起こすリスクが高くなる。さくら苑では、食事に1時間近く時間が掛っている利用者があり、提供時の視覚的配慮や姿勢がずれている、体の傾きが強い為に、食事に時間がかかっている事が分かった。介助量を軽減してリスクを回避するためにも時間を短くする工夫が必要であると考えた。

A氏：本人に対して机と椅子の高さが合わず、お皿を持つ手が机の下にあり、食べ辛そうにされている。

B氏：白内障の既往歴があり、近くの物が見えづらいなど視力が低下している為、白い茶碗の白ご飯だけを残されている。

C氏：身体体幹の拘縮があり、座位の姿勢の維持が難しく、反り返るようにされている。

(倫理的配慮)

本発表に際し事前にご家族へ説明させて頂き、同意を得る

(具体的な取り組み)

A氏：椅子と机の高さを合わせるため、クッションを座面に2段重ねて設置、腕が机より上になり、背筋が伸びる様になった。

B氏：白ご飯がよく見えるように内側が灰色付きの茶碗に変える。

C氏：頭が上に反り返るような姿勢だった為、背中にクッションを挟み、頭や背筋を伸ばし、姿勢をまっすぐに整える

(活動の成果と評価)

机の高さがご本人の腹部の高さに近づいた事や、茶

碗に色を付ける事で見やすくなり、食事時間が1時間近くから30分以内に短縮した。また、クッションで頭や背筋を伸ばした事で、顎を引き嚥下がしやすい姿勢になり、利用者の身体を支えるスタッフのへ負担が軽くなり、結果として利用者の疲労軽減にも繋がった。

(今後の課題・考察・まとめ)

椅子や机の高さを合わせる事や、内側が灰色のお茶碗に変える事で、ご飯がどこにあるのかが視覚的に見やすくなり、自分で食事ができるようになった。また、頭や背筋を伸ばした事で、顎が引き気味になり、安定した姿勢でムセや誤嚥が少なくなった。その為、利用者の疲労軽減や、スタッフの介助量の軽減になったと考える。今後の課題としては嚥下力の低下等で起こり得る誤嚥や、咀嚼力の低下によるミキサー食や刻み食等の食事形態の変更、クッション等で椅子からずり落ちるなど、ご利用者の様子観察や、クッションからのズレ落ち防止を考慮する必要がある。その為には、あいうえお・パタカラ体操や唾液マッサージ、舌の運動を行うことで、嚥下機能を維持し、踵が地面につき、背中の緊張を軽減できる正しい食事の姿勢についてスタッフ全員が学ぶことが大事であると考えている。

(参考・文献など)

食事介助の基本的な姿勢・注意点と麻痺・認知症などの症例ごとのポイントを紹介！8食事前に取り組む口腔体操をご紹介

<https://rehaplan.jp/articles/223>

12 食事姿勢のポイント I (イスとテーブルの場合) 介護の知識 2～6P

<https://izumidateruo.cocolog-nifty.com/blog/files/tekisuto12-1.pdf>

食事介助の適切な時間は?介助の時間配分について解説

<http://Magokoro-bento.com/blog/201902/jikan.html>

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告

		<p>医療法人 聖峰会 田主丸中央病院 久留米市田主丸町益生田 892 ☎0943-72-2460</p>		<p>福岡県久留米市東部をカバーする 地域の中核総合病院 new topic 耳鼻咽喉科新規開設</p>	 <p>田主丸中央病院 HP</p>
---	---	--	---	---	---

認知症高齢者の食生活自立支援

◆キーワード

- 1 食生活の自立支援
- 2 その人らしい生活
- 3 評価項目と考察

グループホームでの食生活自立支援の評価

(埼玉県・三郷市)

ふりがな

種別・施設名 グループホームアカシアの家

ふりがな

職種・発表者：保健師 高杉春代

共同研究者：吉村節子、中原宏子・大場敏明

認知症対応型共同生活介護
グループホーム アカシアの家

1 ユニット9名の事業所、設立は平成15年・認知症の人たちが共同生活を送っている。理念はその人らしい生活と人生をささえて。食生活の自立支援は開設当初から継続してきた。

(取り組んだ課題・はじめに)

認知症の人の生活を支えるケアの中心は、食生活の自立支援が重要だと考えてきた。

それは、食生活そのものが長年の習慣や生活の価値観、嗜好等々が反映され、その人らしい生活の営みで、人生の一部になっているとみるからである。

また、認知症の人にとって食生活の自立行為は記憶力・思考力・実行機能などが総合的に発揮されるものと考え、適切な支援があれば、認知症の進行に大きな影響を受けないで行える生活行為だと考えている。今回の発表はコロナ感染禍以前に実施した食生活の自立支援を対象に評価したもので、その評価方法と評価結果について報告する。

(倫理的配慮)

今回の発表にあたり、個人情報の特定ができないように配慮した。また、写真と資料は家族の了解を得た。

(具体的な取り組み)

評価の対象者・

- 1・入居者9人中承諾を得た7人
- 2・診断名・アルツハイマー型認知症6人・血管性認知症1人
- 3・認知症高齢者生活自立度・Ⅱa2人・Ⅱb1人・Ⅲa3人・Ⅲb1人
- 4・要介護度 要介護2・3人 要介護3・2人 要介護4・2人
- 5・年齢 平均85歳(80~95歳) 歩行自立4人

評価の方法

1. 食生活行為の分析・家事行為の遂行能力を献立決め、買い物、調理、食事動作、後かたづけの5過程で区分し、できる5点・まあまあできる4点・一部出来る3点・かなり困難2点・困難1点できない0点とした。
2. 認知機能の評価はHDS=Rの評価を行った。

軽度は19~15点・14~10点中等度・7以下重度とした。

(活動の成果と評価)

食生活行為の評価項目と評価

- 1・献立決め11項目は軽度者の参加80~98% 重度者においても40%の参加を見ている。
- 2・買い物9項目は重度者の方が参加状況は70%以上と軽度者より高い。
- 3・調理25項目は軽度者が75~80%参加し、重度者は35~45%の参加だが、重度でも80%近く参加している者がいて興味深い
- 4・食事動作9項目は軽度も重度も自立性が高く食事時間も短い
- 5・後片付け12項目は軽度者の100%参加はもちろんであるが、重度者の参加も50%以上見られた。

以上のことから、適切な支援があれば、認知症が進行しても、食生活での自立期間は長いものと思われる。また、この調査項目は援助計画のアセスメントとしても活用でき、適切な支援につなげることができるのではないと思われる。

(今後の課題・考察・まとめ)

その人の能力に適した支援を行うことで生活行為も向上する。その人らしい生活、季節の行事食、郷土食、おふくろの味、苦しい生活の時の食卓、楽しい時の食卓。人生を顧みて回想する。食生活の自立支援こそ認知症ケアの原点でもある。その人らしい生活と人生をささえて・・・

(参考・文献など)

家事行為遂行能力追跡調査報告
H21年度老人保健事業推進費等補助金

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告



『オフィスのトータルプロデューサー』
ハシモト事務機(株)
福岡県久留米市中央町20-30

TEL: 0942-34-3261

FAX: 0942-37-1777

<http://www.aoa21.com>

まんてん高月開設1年目の取組

◆キーワード

- 1 開設1年目
- 2 1人ひとりの「できること」
- 3 関わり

～出来る力を活かした生活作り～

(滋賀県・長浜市)

しゃかいふくしほうじん

たかつき

社会福祉法人まんてん グループホームまんてん高月

ふりがな とみおか さおり
職種・発表者：看護師 富岡 沙織

共同研究者：グループホームまんてん高月職員

認知症対応型共同生活介護
令和2年5月1日開所 定員 2ユニット 18名

運営理念：のんびり ゆったり ほがらかに。
いつまでも自分らしい生活のお手伝い。

(取り組んだ課題・はじめに)

グループホームまんてん高月は令和2年5月1日より開所。入居定員は2ユニット18名の方が生活される。5月に1ユニット目が稼働し、8月から2ユニット目も稼働。グループホームには珍しく男性利用者様が多いのが特徴となっている。開設に伴い自立支援を理念に掲げ、利用者様それぞれの「できること」を見出し取り組んだ結果を報告する。

(倫理的配慮)

事例報告にあたり、ご家族の承諾を得る。

(具体的な取り組み)

①まんてんの理念「のんびり ゆったり ほがらかに。いつまでも自分らしい生活」を基に1日の生活の流れを考えた。

②昔から生活の中で行われてきた、掃除・洗濯・洗濯物干し・食事の下ごしらえ・調理、食事の配膳から片付け、お花や野菜の水やりから収穫を入居されてからも継続して頂けるように環境を整えた。

③入居前のフェイスシートを確認し、入居開始と共に一人ひとりの「できること」に関わりの中から把握し記録へ残した。

(取り組み経過)

①生活の流れを開設初日から毎日行った。当初は職員から声をかけることで、それぞれ取り組んでおられた。しかし、開設から半年ほど経過する頃には、利用者様自身が生活の流れを把握され、時間になると自ら掃除を始められ、職員が食事の準備をしていると「何かすることがあったら言ってな」と声をかけてもらえるようになった。食事の時間になると「ご飯の準備をしようか?」と言い、テーブルを拭かれたり、お膳を配られるようになった。

②女性利用者様の特徴としては、掃除、洗濯や調理といった家事全般を経験されている方が多く、声をかけると快く取り組まれた。

③一人ひとりの「できること」に関わりの中から把握し記録へ残していく中で、男性利用者様にはどのよう

にアプローチしていくと良いのかという課題が出てきた。ほとんどの男性利用者様は家事全般を経験されたことが非常に少なく、時代的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という環境で生きてこられ、施設内での生活の流れを作ることが難しかった。

(活動の成果と評価)

①認知症の方は初めての事や変化に弱い。「何も覚えられないから」「できないから」と何もしてもらわないようにするのではなく、1日の生活の流れを繰り返すことで、機能や能力を獲得・維持できた。そのことで利用者様が「まんてん」で生活することへの不安がなくなり、安心感へと変化したことから、物事に自主的に取り組まれるようになったのではないかとと思われる。

②利用者様が自分の役割を理解し1つ1つの行動に迷われなくなったのは、利用者様の心を動かす「工夫」が行え、また「人に言われたからやる」のではなく、一人ひとりが関心を持たれる「きっかけ作り」が徐々に行えてきたからではないかと思われる。

③男性利用者様の変化としては、プライドを傷つけることなく、まずは成功体験を何度も経験してもらい、自主性を引き出していくことができたのではないかとと思われる。

(今後の課題・考察・まとめ)

利用者様の「できること」を把握するために行った観察。観察とは、介護者の五感や直観力を通して利用者様の事実を捉えるということである。それは対象者である利用者様に関心を寄せていなければ観察はできない。職員一人一人が相手を知ろうとする思いを持ち「その人」のできること、個性を見出し継続して関わることの大切を学んだ。「できなかったことができるようになること」は利用者様本人にとっても、家族様にとっても大きな喜びである。開設2年目も「聴き取ろうご利用者の声を 広げよう喜びの輪」をテーマに掲げ、利用者様、そして家族様と共に喜び合える関わりをしていきたい。

(参考・文献など)

第22回日本認知症グループホーム全国大会 協賛企業・団体広告

第22回日本認知症グループホーム全国大会 福岡大会
ご開催おめでとうございます。

日本認知症グループホーム協会 熊本県支部